
千年のときをこえて

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

千年のときをこえて

【Nコード】

N9625A

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

詩です。わたしの枕草子。一年は生きてること。

春は、夕暮れ。甘酸っぱい青春の思い出はどこか寂しい夕暮れのように。あの人と手を繋いで歩いた散歩道。学校帰りの商店街。それは暖かくて、涼しいような春。

夏は、夜。夏休みはつい夜更かしをしてしまう。どこからか虫の声もしている。太陽はもう沈んでいるけれど代わりにいくつもの星。そして月。風が舞う笑顔の夏。

秋は、正午。枯葉がくるくる舞っているお昼時。まだ夕暮れには早いから、ゆっくりと色の移り行きを見ることが出来る。時には雨も多く降るけれど、台風一過は雲ひとつないお天気で。いつまでも笑っていたい秋。

冬は、朝。雪は積もったかな、と期待して目を覚ます子ども。窓の外の世界は案の定真っ白で、友だちを集めて雪合戦や雪だるま。一緒になって外に出てみる。街は凍りついているけれど、やっぱり楽しい冬。

一年は、人生。成長は年を繰り返していくこと。春夏秋冬を何度も何度も繰り返す。泣いた春を笑顔の夏で受け止めて、秋が寂しいのなら冬にだって花を咲かせて。寂しい季節なんていつだって存在しないんだ。永久のサイクルは途絶えることがない。時計も地球も丸いのはみんな時を刻んで動いているから。少しでも無駄にしない

ためにはきつと、冬を悔いても、夏に期待して、秋には希望の光をもつて、春を生きることだ。こうしているうちにまた一秒過ぎていくけどそれが一生。

『年を過ごして思ふは、季節の移りゆくはことに人の生きるに似るものなり』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9625a/>

千年のときをこえて

2010年10月10日19時50分発行